

<第2次総合計画進行管理表>

施策評価表

作成日 令和07年06月20日(金)

1. 基本事項

施策		地域の特色を生かした魅力ある景観形成	期間	令和5年～令和9年	施策担当部署	都市整備部 都市計画課
総合計画	大項目	5 快適で利便性の高いまち	目的・対象			豊かな自然を保全するため、公共的な緑地の維持管理を適切に行うとともに、公園についても、適正な維持管理及び魅力ある公園整備を進める。また、景観については、歴史的背景を生かした特色ある景観形成の推進及び多くの市民の景観意識の醸成を図る。
	中項目	1 都市整備の行き届いたまちづくり				
	小項目	3 地域の特色を生かした魅力ある景観形成				
	主要プロジェクト					
重要度・満足度	市民意向の把握をするためアンケート調査を行った結果、身近な緑が減少あるいは緑の質が落ちていていると感じていることなどより、施策重要度は平均よりやや低く、満足度はほぼ平均値となっている。		施策推進のための主な取組	1. 森林整備管理 2. 公園の整備、維持管理 3. 景観事務		
施策を取り巻く社会状況等	緑の持つ多様な機能を生かした生活環境づくりを推進するため、緑に対するニーズの高まりへの対応が課題である。また、美しい地域づくりに向けて、特色ある景観形成に取り組む自治体が増えている。					

2. 評価指標

上段は目標値（令和4年度は前期基本計画に基づく目標値、令和5年度以降は後期基本計画に基づく目標値）、下段は実績値

区分	指標名（上段） 算出式・説明（下段）	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
			身近に自然に親しめる環境があると思う市民の割合	%	72.30	80.70	80.70	80.70
深谷市民まちづくりアンケート	%	80.00	79.40	79.10				
市内に魅力的なまち並み・景観があると思う市民の割合	%	46.10	52.30	52.40	52.50	52.60	52.70	
深谷市民まちづくりアンケート	%	52.70	49.40	53.70				
成果指標								

3. 一次評価（今後の施策の方向性）

区分	現状維持	1. 現状維持	2. 拡充	3. 縮小
<p>身近に自然に親しめる環境づくりについては、限られた予算で事業展開が図られているものの、目標値に達しなかった。今後も予算の安定的な確保に努め、施設等の適正な維持管理・更新を進める必要がある。</p> <p>「市内に魅力的なまち並み・景観があると思う市民の割合」は目標値を上回った。引き続きレンガ等を活用した新しいまち並みに向け、積極的に市民等にPRするとともに中央土地区画整理事業の整備を促進し、魅力あるまち並み形成に向けて取り組む必要がある。</p>				
			評価者	都市整備部次長兼都市計画課長 武田 直樹

4. 改善改革プラン（3. 一次評価を受けての具体的な解決策）

区分	具体的な対応策等
<input type="checkbox"/> 既存事業の拡充	・豊かな自然を保全するため、鐘撞堂山の森林などの維持管理を行う。
<input type="checkbox"/> 事業の新規立案	・公園については、利用者の安全を第一に、利用率を考慮するなど、費用対効果を踏まえた適切な維持管理を行う。
<input type="checkbox"/> 事業の廃止・縮小	・「洪沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり」については魅力あるまちなみを形成するため、レンガのまちづくり事業による対象建築物への補助と中央土地区画整理事業による景観に配慮したインフラ整備を継続する。
<input type="checkbox"/> 事務事業の再編	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	

5. 二次評価（所属長の見解）

<p>身近に自然に親しめる環境の維持向上には、利用者の安全を第一に、利用率や費用対効果を考慮した適切な維持管理に努め、良好な景観の保全を図っていくことが今後も必要である。また、魅力的なまち並みや景観形成の向上については、引き続き「洪沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり」を目指したレンガのまちづくりの補助金活用のPRや、中央土地区画整理事業による景観に配慮した整備を継続していくことにより、歴史的背景を活かした魅力的な景観形成を推進していく必要がある。</p>	
所属長	都市整備部長 今井 吾郎